

三つの自立があつたように思う。

私は、いまベビーシッターを日本の母親たちにとってより身近なサービスにするために「キッズライン」というサービスを展開している。これから女性が働く機会が増え、保育園では賄えない育児は、日本でも諸外国のようにベビーシッターを一般化していく必要があると考えたからだ。シッターは二〇〇〇人を超え、親御さんは二〇〇〇人ほどの登録があり、インターネット上でお互いのマッチングを行う。日本で一番安く、安心安全のベビーシッターサービスが「キッズライン」のコンセプトで、一時間一〇〇〇円から、当日でもシッターを呼ぶことができる。

広岡浅子のような先人たちの努力があつて、いま女性の生き方が転換期を迎えている。女性がより輝く未来にするために、私も事業を通して、社会を進化させたいと思う。

## 常に 「当たり前まえ」 の現実を 疑え



### 横田響子

(株式会社コラボラボ代表取締役)

本書の内容の面白さには疑う余地はないが、私は「あとがき」を見て驚いた。

二十数年前、女性の生き方について関心のあつた著者は、ある時『日本女性人名辞書』をめくっていたところに、広岡浅子の名前を見つけ、その存在を知つたのだという。その記述はたつたの一四行。坂本龍馬も

いまでこそ絶大なる人気を誇る人物であるが、彼も作家の司馬遼太郎さんの手によって、人生の物語に再び息が吹き込まれ、現代でより多くの人に知られるようになった。それを思うと、点在する材料を集め、整理し、広岡浅子の生きた人生物語として編むという偉大な仕事をされた著者に敬意を表したいと思つたし、それが時を経てNHKの連続テレビ小説でドラマ化され多くの人たちの目に触れるようになったことも感慨深い。

さて、本書を読んで感じた広岡浅子の人物像だが、なにより大局をつかむ力に優れており、それでいて詳細は緻密に進めていく繊細さに感銘を受けた。事業を興す人は、「時代はこう変わるべきだ」という思いが先立ち、実務能力や経済観念が整っていないかたたりしがちなのだが、彼女はその理念と現実感覚の両方を備